



平 井 淑 江 教 授

学歴

- 1966年3月 ノートルダム清心女子大学文学部英文科卒業
中学校教諭1級普通免許状取得(昭40中1普第95号)
高等学校教諭2級普通免許状取得(昭40高2普第121号)
- 1968年3月 視能訓練士免許証取得(視能訓練士名簿登録番号92号)
- 2000年11月 London University of London, Department of Epidemiology and International Eye Health: Master of Science in Community Eye Health
[ロンドン大学眼科学研究所 修士課程修了]
- 2005年4月 名古屋大学大学院医学系研究科 細胞情報医学専攻
頭頸部・感覚器外科学講座眼科学分野 博士(医学)論医博第3162号

職歴

- 1966年4月 倉敷市児島佐藤眼科(視機能検査担当)(1969年9月まで)
- 1970年4月 愛知県総合保健センター視力診断部(視能訓練士)(1975年3月まで)
- 1977年7月 愛知県総合保健センター視力診断部 非常勤職員(視能訓練士)(1978年12月まで)
- 1979年1月 名古屋大学医学部附属病院眼科技術補佐員(視能訓練士)(2003年3月まで)
- 2003年4月 愛知淑徳大学教養教育センター教授(2004年3月まで)
- 2004年4月 愛知淑徳大学医療福祉学部医療貢献学科視覚科学専攻教授(2010年3月まで)
- 2010年4月 愛知淑徳大学健康科学部医療貢献学科視覚科学専攻教授(2014年3月まで)
- 2014年3月 愛知淑徳大学定年退職

学会及び社会活動

日本視能訓練士協会会員

国際視能訓練士協会会員

日本斜視弱視学会会員

日本神経眼科学会会員

1992年6月 国際視能訓練士協会理事(日本代表理事)(2000年3月まで)

1996年4月 日本視能訓練士協会 国公立定員化調査委員会委員長(2000年3月まで)

2005年1月 日本視能訓練士協会協会誌査読委員(2008年12月まで)

2012年4月 全国視能訓練士学校協会の実習ガイドライン作成委員(2012年3月まで)

主な著書・論文

主な著書

1. 『眼科診断機器とデータの読み方(眼科診療プラクティス18)』(共著) 文光堂 1995
2. 『視能訓練士 スペシャリストへの道 1~5』(共著) メディカル葵出版 2001~2007
3. 『眼科医と視能訓練士(眼科診療プラクティス86特大号)』(共著) 文光堂 2002
4. 『眼科臨床に必要な解剖生理(眼科診療プラクティス6)』(共著) 文光堂 2005
5. 『両眼視』(共著) 金原出版 2007
6. 『視能矯正学用語解説辞典』(共著) メディカル葵出版 2010

主な論文

1. 「偏心固視についての一考察」『日視会誌』6(2). 1977
2. 「回旋の検査法と Orthoptics」『眼科臨床医報』76(12), 1876~1885. 1982
3. 「残像検査法の評価」『日視会誌』14, 52~55. 1986
4. 「網膜対応:その理論と実際 イントロダクション」『日視会誌』10, 48~57. 1992
5. 「内斜視・外斜視・遠視性不同視に伴う弱視について」『眼科臨床医報』89(9), 1295-1299. 1995
6. “Modified Bagolini striated glass test: Clinical application of starlight test in binocular visual field testing” (主著) *British J. Ophthalmol* 82, 1288-1293. 1998
7. “Loss of stereopsis with optic chiasmal lesions and stereoscopic tests as a differential test” (主著) *Ophthalmol* 109 (9), 1692-702. 2002
8. 「視野と立体視を考える」『あたらしい眼科』21(9), 1151-1160. 2004
9. “Stereopsis in idiopathic macular hole with special reference to the size of hole and its effect on stereoacuity” (主著) *Binocular Vis. Strabismus Q* 18(4), 242-248. 2003
10. “The remnants of crossed fixation observed in teenaged children with esotropia” (主著) *Binocular Vis. Strabismus Q* 19(2), 88-94. 2004
11. “Dynamic aniseikonia measurement: Prismatic effect appears on the Hess chart. (主著) *Binocul Vis. Strabismus Q* 19(4), 234-45. 2004
12. “Similar etiologies of functional visual loss observed in children and adults” (主著) *Binocular Vis. Strabismus Q* 20(4), 218-23. 2005
13. 「視野障害と立体視の異常:視交差疾患と黄斑円孔について」(共著)『神経眼科』23(4) 444-452. 2006

14. 「Haidinger's brushes をもちいた視覚健診の試み」(共著)『日視会誌』 40, 85-90. 2011
15. 「片眼特発性黄班円孔症例の不等像視」(共著)『臨床眼科』 66, 12. 2012

その他の業績 (学会発表)

1. "Re-evaluation of the depth of anomaly concept with special reference to After-image tests" *Transactions of the 6th International Orthoptic Congress.* 1987
2. "A study of critical period of abnormal retinal correspondence in cases of consecutive exotropia" *Transactions of the 7th International Orthoptic Congress.* 1991
3. "Can we eliminate amblyopia in the 21st century?" *Transactions of the 8th International Orthoptic Congress.* 1995
4. "Binocular visual field of strabismus measured by Starlight test" *Advances in Strabismology Transaction of the 8th Strabismological Association.* 1998
5. "Can patients with glaucoma and intracranial diseases recognize their visual field loss?" *Transactions of the 9th International Orthoptic Congress.* 1999
6. "Aniseikonia measured by Hess Chart and New Aniseikonia Tests" *Progress in Strabismology Transaction of the 9th Strabismological Association.* 2003
7. "Can stereo test be an indicator of decreased visual acuity?" *Transactions of the 10th International Orthoptic Congress.* 2004
8. "Graduate course for Orthoptists in Japan" *11th International Orthoptic Congress.* 2008

名 誉 教 授 推 薦 書

平井 淑江 先生

(健康医療科学部医療貢献学科視覚科学専攻)

平井淑江教授は、平成 15 年 4 月、愛知淑徳大学教養教育センター教授として着任され、愛知淑徳大学医療福祉学部医療貢献学科視覚科学専攻の開設準備に尽力され、平成 16 年 4 月より医療福祉学部医療貢献学科視覚学専攻教授に就任されました。また、平成 18 年 4 月に設置された愛知淑徳大学大学院医療福祉研究科の開設メンバーとして教授に就任され、平成 20 年 4 月から平成 24 年 3 月まで、同研究科コミュニケーション障害学専攻主任を務められました。

平成 18 年に開設された愛知淑徳大学クリニックでは、眼科において、開院当初より視能訓練士として週 1 回の臨床に携われ、地域の眼科医療に尽力されました。

医療人としては、文学部英文学科を卒業後、昭和 41 年 4 月に倉敷市の眼科医院に就職され、医療人としての歩みを始められました。昭和 43 年の視能訓練士法の制定、施行に尽力され、同年、わが国初の視能訓練士の 1 人となりました。その後、昭和 45 年 4 月に愛知県総合保健センター、昭和 54 年 1 月に名古屋大学医学部附属病院眼科において、視能訓練士として、地域の眼科医療に貢献されました。この間、日本視能訓練士協会、国際視能訓練士協会の会員として、わが国における視能訓練士の地位向上に努められ、また、後進の育成に多大なる尽力を果たされました。

研究者としては、45 年間にわたる視能訓練士としての活動を通して、主に両眼視機能に関する臨床研究に多くの成果を挙げて来られました。平成 12 年 11 月にロンドン大学眼科研究所で修士の学位を取得され、平成 17 年 4 月には、名古屋大学で博士(医学)(名古屋大学 論医博第 3162 号)を取得されました。

教育者としては、名古屋大学医学部附属病院時代には、視能訓練士を目指す実習生を多く受け入れ、後進の育成に尽力され、本学着任後は、視能訓練士の育成とともに、視機能に関する臨床的研究の指導に当たられ、多くの優れた専門家を輩出されました。とりわけ、本専攻の学外臨地実習の実施責任者として、本学の視能訓練士養成教育の中核を担われました。

上記により、平井淑江教授を、本学の定める名誉教授授与の基準、愛知淑徳大学名誉教授規程第 2 条第 3 号に該当する者として推薦いたします。